

那覇支部通信

那覇支部安全衛生部会・勉強会で「安全体感装置」を体験

那覇支部安全衛生部会では、令和7年12月16日(水)、安全衛生活動の一環として、株式会社沖電工安全品質部に設置されている「安全体感装置室」において、安全衛生部会・勉強会を開催しました。当日は部会員が2班に分かれ、4種類の安全体感装置を実際に体験しました。中でもVR安全体感装置では、事故事例を仮想空間で体験することができ、参加者からは、リアルな映像により事故の瞬間を当事者の立場で体感し、その恐ろしさに驚く声が多く聞かれました。

今回の体験を通じて、「誤判断」や「注意力の欠如」が重大な事故につながる可能性があることを、強く認識する機会となりました。これらの体感装置は、疑似的に危険な状況を体感することで危険感受性を高め、労働災害の未然防止や安全意識の向上に役立つ最新の体験型教育施設でした。また、勉強会では部会員同士が活発に情報交換を行い、相互の連携を一層深める有意義な機会となりました。



令和7年度 那覇支部安全衛生研修会を開催

那覇支部は、令和7年12月22日(月)、パシフィックホテル沖縄において、那覇労働基準監督署の小池署長及び佐喜真安全衛生課長をお招きし、「令和7年度那覇支部安全衛生研修会」を開催し、那覇支部運営委員と安全衛生部会員28名が参加しました。

仲西支部長のあいさつで開会し、小池那覇監督署長から「沖縄労働局労働基準行政が取り組むべき課題と取組状況(上半期)」についての講話が行われました。

小池署長からは、労働基準関係法令違反が依然として高い水準にあることや、転倒災害・高齢労働者災害の多さ、労働者の健康診断での有所見率の高さに触れ、健康管理を含めた労働安全衛生対策の重要性が示されました。

佐喜真安全衛生課長からは、労働災害の発生状況と具体的事例について説明があり、足場組立作業中の墜落災害や熱中症、フォークリフトによる災害が多発している現状が報告されました。研修終了後、参加者で事業場における安全対策の課題や取組事例について意見交換が行われ、交流を深めました。

